

—第 23 回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2024 年 11 月 23 日 (土) 13 : 00 ~ 14 : 30

開催方法 オンライン (Zoom を使用します)

コーディネーター : 井上 透、前川 道博

プログラム

※発表時間は 10 分、質疑応答は 5 分です。

1. 新制津田塾大学の初代学長の星野あいを通じた女子大学の今日的意義の一考察
(13 : 00 ~ 13 : 15)
中村 愛子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
2. 国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の展覧会のデジタルアーカイブの有用性について
~教育機関での実践をとおして~
(13 : 15 ~ 13 : 30)
蔵座^{そうざ} 江美 (一般社団法人金陽会)
3. 絵はがきデジタルアーカイブの標準化
(13 : 30 ~ 13 : 45)
朝井 佐智子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
4. 「近世怪談アーカイブ」の構築と利活用について
(13 : 45 ~ 14 : 00)
森 翔大 (名古屋大学大学院 人文学研究科)
5. 出土遺物の 3 次元ドキュメンテーション
(14 : 00 ~ 14 : 15)
江添 誠 (神奈川大学 国際日本学部)
6. メタバース絵本の構築と効果
(14 : 15 ~ 14 : 30)
櫟^{いちき} 彩見 (岐阜女子大学)

デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局 (岐阜女子大学)

〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内

電話 : 058-267-5301 (日本デジタルアーキビスト資格認定機構)

第 23 回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

| | |
|----|---|
| 1. | <p>新制津田塾大学の初代学長の星野あいを通じた女子大学の今日的意義の一考察</p> <p style="text-align: right;">(13:00~13:15)</p> <p style="text-align: center;">中村 愛子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>星野あい(1884年~1972年)は津田梅子(1864年~1929年)の逝去後、後を託されて「女子英学塾」の2代目学長となり、戦後、新制「津田塾大学」への大学昇格を果たしたうえで初代学長となり、1952年に退任するまで23年間学長を勤めた。</p> <p>本論文では彼女の功績を振り返り、女子英学塾や米国の女子大学や大学院で受けた教育をもとに、戦後日本の新憲法のもとで「女子学生」に個人として与えられた権利や能力を自覚させ、卒業後に社会人として満足度の高い人生を生きていくために①一般教育、専門教育(教員免許)と②女性の専門教員による健康教育を行い③平和な文化国家並びに社会を形成する責任を担う女性(all-round women)を育成し、④同窓会を通じて生涯大学とかかわるネットワークづくりを目指したことを考察する。</p> |
| 2. | <p>国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の展覧会のデジタルアーカイブの有用性について</p> <p>～教育機関での実践をとおして～</p> <p style="text-align: right;">(13:15~13:30)</p> <p style="text-align: center;">藏座 江美 (一般社団法人金陽会)</p> <p>国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会には900点を超える作品が残されている。入所者(ハンセン病患者)による作品群であることから、作品そのものをデジタルアーカイブして公開することは難しい状況である。筆者は2016年からそれらの作品調査ならびに展覧会を全国各地で行ってきた。金陽会作品群のデジタルアーカイブ公開は難しくても、これまで開催してきた展覧会をデジタルアーカイブすることで、展覧会という「場」の持つ可能性、特に教育現場での有用性を提示する。</p> |
| 3. | <p>絵はがきデジタルアーカイブの標準化</p> <p style="text-align: right;">(13:30~13:45)</p> <p style="text-align: center;">朝井 佐智子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>本研究では、絵はがきのデジタルアーカイブ化やオープンデータ化がどのような現状であるか調査し、デジタル化の進展を妨げる要因を所蔵機関、絵はがきそのものの自体の問題点を明らかにし、それを踏まえた上で、絵はがきをデジタル素材のアーカイブとして利用可能にするためにどのようなメタデータが必要であるか考察した。</p> |
| 4. | <p>「近世怪談アーカイブ」の構築と利活用について</p> <p style="text-align: right;">(13:45~14:00)</p> <p style="text-align: center;">森 翔大 (名古屋大学大学院 人文学研究所)</p> <p>江戸時代には多くの怪談小説が出版されており、怪談に関する研究が様々に進められているものの、怪談の情報はデータベース等で体系的に整理されていない。そこでこの度、長野大学の前川道博氏にご協力いただき、怪談の情報をメタデータとして整理した「近世怪談アーカイブ」を構築した。本発表では、このデジタルアーカイブを紹介するとともに、怪談研究に資する点や教育・学習への利用など、利活用の可能性を検討する。</p> |
| 5. | <p>出土遺物の3次元ドキュメンテーション</p> <p style="text-align: right;">(14:00~14:15)</p> <p style="text-align: center;">江添 誠 (神奈川大学 国際日本学部)</p> <p>考古学発掘調査において出土した土器片やランプ片などの遺物のデータは、従来の調査では多くの場合、手で実測を行い、平面図と断面図を作成して、写真とともに2次元のデータで発掘報告書に記載されている。しかしながら、実際の出土遺物を観察した経験のない人には報告書の遺物データから正確に実際の遺物を把握することは不可能と言っているほど困難なことである。本発表ではこのような状況を解決する方法として、出土遺物の3次元ドキュメンテーションの有用性を検討してみたい。</p> |
| 6. | <p>メタバース絵本の構築と効果</p> <p style="text-align: right;">(14:15~14:30)</p> <p style="text-align: center;">櫛 彩見 (岐阜女子大学)</p> <p>絵本は幼児の情操教育の素材として用いられるが、大人が読むことで感情の生起や自分自身に向き合う機会になるなど効果があると言われている。一方でデジタル技術「メタバース」は五感を使った体験であることから、高い共感や没入感が得られやすい。絵本とメタバースの共通する部分は多く、メタバースで絵本を表現することで絵本の効果を高めることができると考え、メタバース絵本を作成して効果を明らかにした。</p> |

※発表時間は10分、質疑応答は5分です。